

馬産地ライター村本浩平の 2023 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑



Vol. 3 | 8.10[木] ▶ 9.28[木] 開催分

8.10
[木]

ジャスタウェイ賞
【ブリーダーズゴールドジュニアカップ(H2)】

ジャスタウェイは2009年産まれ鹿毛馬で、2015年シーズンからスタッドイン。現在は日高町・ブリーダーズ・スタリオン・ステーションで繋養されています。2歳時から重賞戦線で活躍を続けたジャスタウェイが、本格化したのは4歳の秋。4度目のGI挑戦となる天皇賞・秋を制すると、次の年のドバイデューティフリーをレースレコードで優勝します。このレース内容が評価される形で、ワールドベストレースホースランキングでは、日本調教馬として史上初の単独1位となりました。種牡馬入り後は自身が得意とした芝だけでなく、ダートでもGI級の活躍馬を輩出。マスターフェンサーは米三冠競走に出走を果たしました。

8.15
[火]

ノーブルミッション賞
【星雲賞(H3)】

ノーブルミッションは2009年産まれ鹿毛馬で、2020年シーズンから新ひだか町・日本軽種馬協会静内種馬場で繋養されています。全兄FrankelはGI10勝を含む14戦14勝の成績を残した歴史的名馬。そのFrankelが現役時に芝のマイルを中心とした活躍を残した一方、ノーブルミッションは芝の中長距離で頭角を現していきます。4歳時にはタタソールズゴールドCでGI初制覇。続くサンクルー大賞でGI連勝を果たすと、引退レースとなった英チャンピオンSでは兄Frankelとの兄弟制覇も成し遂げます。引退後はアメリカでスタッドインし、初年度産駒からはGI馬も誕生。日本で誕生した産駒は来年デビューを迎えます。

8.16
[水]

ゴールドドリーム賞
【旭岳賞(H3)】

ゴールドドリームは2013年産まれ鹿毛馬で、2021年シーズンから新ひだか町・レックススタッドで繋養されています。ダートサイアーとして名を残したゴールドアリュールの産駒となるゴールドドリームは、前日に亡くなった父に授けるかのように、4歳時のフェブラリースで初GI制覇を果たします。その後は長きに渡ってダート重賞戦線の主役を務めていき、チャンピオンCと帝王賞に加えて、かしわ記念を連覇するなど、GI級競走で5勝をあげています。生涯成績は27戦9勝ながら、2着は8回と高い連対率を示しており、優れた能力に加えて、安定感のある走りも、来年デビューする産駒には受け継がれているはずで。

8.24
[木]

アメリカンペイトリオット賞
【フルールカップ(H3)】

アメリカンペイトリオットは2013年産まれ鹿毛馬で、2018年シーズンから日高町・ダーレー・ジャパン スタリオンコンプレックスで繋養されています。父は繋養先のアメリカのみならず、世界各国でGI馬を輩出しているWar Front。日本にも後継種牡馬のザファクターと、デクラレーションオブウォーが相次いで導入されました。アメリカンペイトリオットは現役時にメーカーズ46マイルSを優勝するなど、芝のマイルから中距離で活躍を見せていました。そのスピード能力の高さは産駒にも伝えられ、初年度産駒のビーアストニッドはスプリングSを優勝。今年も芝、ダートを問わない勝ち上がり良さを見せています。

8.29
[火]

サトノクラウン賞
【王冠賞(H2)】

サトノクラウンは2012年産まれ黒鹿毛馬で、2019年シーズンから安平町・社台スタリオンステーションで繋養されています。2歳新馬戦に勝利してから、東スポ杯2歳S、次の年の弥生賞と重賞を連勝。クラシックにこそ縁はありませんでしたが、4歳時の香港ヴァーズでGI初制覇をあげただけでなく、5歳時の宝塚記念にも優勝するなど、息の長い活躍を続けていきます。日本の主流血統となったサンデーサイレンスと、キングカメハメハを持たない血統背景は配合のしやすさともなっており、繋養初年度から207頭の繁殖牝馬を集める人気ぶり。次の年に誕生したタスティエーラが、今年の日本ダービー馬となりました。

9.6
[水]

ダノンプレミアム賞
【フローラルカップ(H3)】

ダノンプレミアムは2015年産まれ青鹿毛馬で、2022年シーズンから新ひだか町・アロースタッドで繋養されています。新馬戦を勝利後に臨んだサウジアラビアRCを2歳コースレコードで快勝。朝日杯フューチュリティSでもレースレコードを樹立しての勝利と、圧倒的なスピードを見せ付けていきます。3歳以降はG1タイトルに縁が無かったものの、それでもGIIレースを3勝、4歳時の天皇賞・秋とマイルCSでは2着となるなど、GI級の能力を証明していききました。その競走成績もさることながら、現役時は500kg代で競馬をしていた好馬体は生産者の評価も高く、繋養初年度には145頭の繁殖牝馬を集めています。

9.7
[木]

シャンハイボビー賞
【イノセントカップ(H3)】

シャンハイボビーは2010年産まれ青鹿毛馬で、2019年シーズンから新ひだか町・アロースタッドで繋養されています。シャンハイボビーは2歳時に米シャンペインSとBCジュヴェナイルとGIを2勝。この年は5戦5勝という完璧な成績で、エクリプス賞最優秀2歳牡馬にも選出されました。父譲りの仕上がりの良さはアメリカでデビューした産駒だけでなく、日本で誕生した現3歳世代の活躍にも表れています。また、大井でデビューしたマンダリンヒーローは南関東で2歳時に重賞勝ちをあげると、次の年にはアメリカに遠征。サンタアニタダービーで2着となり、ケンタッキーダービーにも出走を果たしました。

9.14
[木]

ビッグアーサー賞
【ウポイオータムスプリント(H2)】

ビッグアーサーは2011年産まれ鹿毛馬で、2018年シーズンから新ひだか町・アロースタッドで繋養されています。3歳時に初勝利をあげた後は休養に入るも、復帰後は4連勝で一気のオープン入り。重賞制覇までには時間はかかりましたが、GI初挑戦となる高松宮記念を優勝。その後、セントウルSにも勝利しています。テスコボーイからの貴重なサイアーラインかつ、サンデーサイレンスの入っていない血統背景もあって、繋養初年度から安定した繁殖牝馬を集めています。その中からプトンドールが函館2歳Sを優勝。また、トウシンマカオも京阪杯を勝利と、産駒も父と同様に芝スプリントでの活躍が目立っています。

9.20
[水]

マクフィ賞
【サンライズカップ(H1)】

マクフィは2007年産まれ鹿毛馬で、2017年シーズンから新ひだか町・日本軽種馬協会静内種馬場で繋養されています。マクフィは3歳時にジェベル賞で重賞を初制覇。イギリスのクラシック第一冠の英2000ギニーを優勝し、ジャックルマロワ賞では祖父のDubai Millennium、父のDubawiと親子3代での同レース制覇を果たします。引退後はイギリスとフランス、そしてニュージーランドでもシャトル種牡馬として繋養され、Make Believeは仏2000ギニーを優勝。GI3勝をあげたBonnevallは2年連続でニュージーランドの年度代表馬となりました。日本でもオールアットワンスがアイビスサマーダッシュを優勝しています。

9.28
[木]

デクラレーションオブウォー賞
【瑞穂賞(H2)】

デクラレーションオブウォーは2009年産まれ鹿毛馬で、2019年シーズンから新ひだか町・日本軽種馬協会静内種馬場で繋養されています。GI初制覇は4歳時のクイーンアンSと時間を要したものの、それ以降は高いレベルで安定した走りを見せていき、ヨークインターナショナルSでGI2勝目をあげます。その後は初めてのダート戦となるBCクラシックへと出走。ここでも3着と能力の高さを証明しました。海外繋養時には初年度産駒から仏2000ギニーの勝ち馬Olmedoなど、次々とGI馬を輩出。日本でもタマモブラックタイがファルコンSを優勝し、昨年のホープフルSではトップナイフが2着となっています。

今シーズンは特別競走9レースも
「スタリオンシリーズ競走」
として開催!

- 門別11回・クリエイターⅡ賞
- 門別12回・エスケンデレヤ賞

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパンブリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産牧場に種牡馬の翌年種付権利を副賞として贈呈する競走です。

※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

